

2015年合格目標
TAC 行政書士講座
直前オプション講座特別セミナー

直前オプション・直前期答練で

怒涛の追い込み！

「本試験で

40 点アップ

を図る方法」

《セミナーの内容》

- 1. 時間を無駄にしないための学習方法**
- 2. 40 点アップを図る方法(合格点を作る)**

1. 時間を無駄にしないための学習方法

(1) インプット時間は極限まで絞り込む

もはや直前期！インプットに割く時間を極力減らし、アウトプット時間を十分にとって、実戦訓練を行なっていく必要があります。比率としては、インプット1に対して、アウトプット9の割合です。

テキストを頭から読み込んでいくのではなく、問題を解きながら、間違えたところをテキストに戻って復習します。そうすることで、分かっているところに時間を消費せず、分かっていないところに時間を割くことができます。

(2) アウトプットのやり方

本試験までにやる問題演習は、その問題に正解するためではなく、あいまいな知識を発見して、その知識の穴をピンポイントで埋めるためにやります。

① 曖昧な知識をどれだけ増やしても本試験では使えない。

問題を解いて、正確確実に判断できる知識が、本試験でも使える正確な知識です。曖昧な10の知識より、正確な3の知識です。

② 正誤判断を正確にできる知識を獲得するための問題演習法

正誤判断の根拠となる条文や判例を説明できれば、○や×をつけ、できなかった肢や、正誤判断に時間がかかった肢には△をつけます。

【問題1】正しいものを選び。

- | | |
|----------------------------|-----|
| 1. → 見たことはあるけど、正誤判断がつかない | → △ |
| 2. → なんとなく正しいと思うけど根拠がわからない | → △ |
| 3. → 1分間考えて誤りと判断 | → △ |
| 4. → 正しいと判断。根拠判例も言える | → ○ |
| 5. → 誤りと判断。根拠条文も言える | → × |

肢4、肢5は分かっているので、軽く確認すればオーケーです。

肢1、肢2、根拠条文、判例を見直し。誤りの肢は特に大事にする。条文や判例のどこが誤りに変更されているのかをチェックします。

肢3は、なぜ正誤判断に時間がかかってしまったのかを自己分析。知識が曖昧なところを条文・判例でチェックします。

すべて○×を正確につけることができる知識、本試験でも使える知識が増えていくわけです。

（３） 学習計画に基づく学習指針

学習スケジュールを立てた場合、陥りやすいのが、「計画倒れ」になってしまうこと。１日でやろうと思ったところが終わらず、残した部分を翌日に回す。さらに終わらなかったところはまた翌々日に、さらにその次の日に。結局、１科目の終了予定日には半分しか終わっていない。

それが連鎖して、計画は終わらないわ、モチベーションは下がるわで、思うように学習できないなんてことがあります。

学習指針として、一日にやろうと思っていた計画が途中で終わった場合、残っていても気にせず、翌日は、翌日にやろうと思っていたことから学習を始めます。

やり残したところは、その問題を解いたときに、必ず間違えてくれます。それよりも、全くやっていないところのごっそり残ってしまうことの方が問題です。３回４回と回していくうちに、やり残したところをやる機会が生まれるでしょうから、それまでやらなくても構いません。

時間がないけれども、どうしても一日に計画したところは触れておきたいということであれば、解く予定だった問題の肢１・２をすべて解くというようなやり方が有効です。

2. 40 点アップを図る方法(合格点を作る)

(1) 直前オプションは弱点補強&得意分野強化アイテム

⇒それを効率的に行なうことを可能にするのが直前オプション
弱点をピンポイントで復習すること。
得意分野を強化すること。

科目全体の底上げ ⇒ **やまかけ3日漬講座**
行手法・行審法での得点アップ

⇒ **ラストスパート行手法・行審法**

民法事例問題の得点アップ ⇒ **事例問題を図で解く講座**

記述問題の解き方マスター ⇒ **記述式解法テクニック講座**

記述式での得点アップ ⇒ **厳選30問記述演習講座**

一般知識が弱点 ⇒ **これだけ一般知識**

(2) 直前期答練は弱点補強アイテム

⇒**弱点の補強・弱いところを集中的に復習する**

正解した問題、分かっている肢ではなく、不正解だった問題、分か
らなかった肢を集中的に補強していきます。

効率的な、弱点補強の最強アイテムです。

注意) 復習を確実に行なうことが最優先ですので、復習ができな
いにも関わらず、むやみやたらに数多く受けるのは避ける。不
十分な復習しかできず(まったく復習できず)、曖昧な知識ばかり
が増え、得点が下がってしまう可能性。

① 直前期答練の復習の仕方

i 得点をつける

⇒180点オーバーなら素直に喜ぶ!!

⇒180点なくても腐らない!!

合格者のほとんどが試験1~2週間前に合格ラインに到達する!

ii 択一・多肢のみで150点~160点を目指す。

⇒そのための復習方法を考える。

択一54問+多肢3問(択一にして6問分)=択一にして60問

⇒ 150点なら60問中38問の得点が必要

↓

ここにもっていくために、どこをやるのが負担が少なく効率的か?

②星獲り表を作成 → どこで得点を作るか？

得点表							
択一・法令	120点獲得を目指す						
	問数	目標(素点)	最低目標(素点)	あなた	所要時間	合計	あなた
基礎	2問(8点)	1問(4点)	1問(4点)		1問2分	4分	
憲法	5問(20点)	3問(12点)	2問(8点)		1問3分	15分	
民法	9問(36点)	6問(24点)	5問(20点)		1問4分	36分	
総則	2問(8点)	2問(8点)	1問(4点)				
物権	2問(8点)	1問(4点)	1問(4点)				
債権	4問(16点)	2問(8点)	2問(8点)				
親族相続	1問(4点)	1問(4点)	1問(4点)				
行政法	19問(76点)	17問(68点)	15問(60点)		1問2分	40分	
法理論	6問(24点)	5問(20点)	4問(16点)				
行手法	3問(12点)	3問(12点)	3問(12点)				
行審法	2問(8点)	2問(8点)	2問(8点)				
行訴法	3問(12点)	3問(12点)	3問(12点)				
国賠法	2問(8点)	2問(8点)	2問(8点)				
地自法	3問(12点)	2問(8点)	1問(4点)				
商法	5問(20点)	3問(12点)	2問(8点)		1問2分	10分	
	40問(160点)	30問(120点)	25問(100点)			105分	
択一・一般	40点獲得を目指す						
	問数	目標(素点)	最低目標(素点)	あなた	所要時間	合計	あなた
政治	2問(8点)	1問(4点)	1問(4点)		1問2分	4分	
経済	2問(8点)	1問(4点)	0問(0点)		1問2分	4分	
社会	3問(12点)	2問(8点)	0問(0点)		1問2分	4分	
情報関連	4問(16点)	4問(16点)	3問(12点)		1問2分	4分	
文章	3問(12点)	2問(8点)	2問(8点)		1問6分	18分	
	14問(56点)	10問(40点)	6問(24点)			40分	
多肢選択	20点獲得を目指す						
	問数	目標素点	最低目標素点	あなた	所要時間	合計	あなた
	12問(24点)	10問(20点)	8問(16点)		1問3分	10分	
記述式	30～40点獲得を目指す						
	得点目安			あなた	所要時間	合計	あなた
	択一＋多肢で180点なら 0点				1問8～10分		
	択一＋多肢で140点なら40点					25分	

③優先順位

- i 得意なのに間違えた問題（ケアレスチェック）
- ii 苦手意識を感じないところ（短時間での復習が可能）
- iii 難易度が易しい問題（合格者なら解いてくる問題）

（３）試験当日

- i 試験官がしまってくださいというまで記憶喚起。
- ii 始まる前に大きく深呼吸。
- iii 難しい問題が出てもテンパらないと自分に言い聞かせる。
- iv 誰も分からない問題なんて、せいぜい５問程度。難しい問題が２、３問続くとテンパってしまうこともあるかもしれません。しかし、４問目には必ず優しい問題が来るから！と思いながら解きすすめる。
- v どのような状況でも、試験に集中する。気にしない。
隣に貧乏ゆすりする人 ⇒ 電車のなかで勉強してると思えばいい
独り言が多い人 ⇒ 喫茶店のなかで勉強していると思えばいい
- vi 得意なところから解く（解答順序）
解ける問題を落とすのが一番よくない。行政書士試験に限っては「おいしいところから食べる！！」ことが必須。それで、本試験の解く順番を決める。⇒ ただしマークミスは絶対に注意

以 上